

(・小論文 ・総合問題 ・日本語作文) 出題意図

薬 学部 薬・創薬科 学科(課程)

専攻(コース, 系)

○ 試験の種類別

- ・ 総合型選抜(ディスカバリー入試)
- ・ 総合型選抜(大学入学共通テストを課すもの)
- ・ 学校推薦型選抜Ⅰ(大学入学共通テストを課さない)
- ・ 学校推薦型選抜Ⅱ(大学入学共通テストを課すもの)
- ・ 社会人選抜
- ・ 私費外国人留学生選抜

SDGsにおける17の目標	3. すべての人に健康と福祉を
本学部では、「薬」を生み出すために必要なこと、あるいは、「薬」を用いて医療・環境衛生維持に貢献するために必要なことを教育しており、SDGsにおける17の目標のうち、「3. すべての人に健康と福祉を」と密接に関連する。総合型選抜では、本学部のアドミッション・ポリシーに基づいて、大学院博士課程や博士後期課程に進学して、将来、研究者として活躍することを視野に入れた学生を選抜したいと考えている。研究活動を行う上では、科学的に妥当な方法で実験を行い、得られた結果を複合的に解釈・考察する過程を繰り返す必要がある。 本小論文では、高校化学で習う「抽出」を基にした仮想の実験結果を提示し、抽出液の色と抽出液のもたらす鎮痛効果の関係について考察させる問題を出題した。まず、実験結果から化合物の性質を推定させた後(問1)、抽出温度の影響について、追加実験の結果を踏まえた考察を促すことで(問2)、複数の実験結果を組み合わせたうえで、論理的な思考を行う能力の評価を企図した。さらに、抽出を効率よく行う方法を複数論述させることで(問3)、専門分野に関連する科学的知識の豊富さや理解度の評価を目指した。 これらの問題を通して、受験生の思考力・判断力・表現力等の能力を評価することで、本学部のアドミッション・ポリシーに合致し、薬学・創薬科学分野での将来的な活躍が期待できる人材を適切に選抜できると考える。	